

冬晴れて暖かい日との、平成28年12月6日(火)、大正末期から昭和初期に、多くの文士、芸術家に移り住み、互いの家を行き来し交流を深めていた、いまは「文士村」と称される街並みを巡ってきました。



《大森・馬込村の文士芸術家のレリーフ》

JR大森駅を出てすぐの、天祖神社へ上る階段道の石垣壁に、この街に住まっていた文士たちの肖像レリーフが数多く掲出されており、案内講師の横田巖先生が解説してくださいました。



《大森山王から馬込へ》

街の道すがらとところどころにこの辺りで暮らした文士たちの解説版があります。これは、昭和3年に馬込谷中に越してきた「室生犀星」についての記述で、泥棒よけにブルドックを飼っていたこと、家族サービスも怠らなかった、と書いてありました。



《 大田区立山王会館の馬込文士村資料展示室 》

散策の休憩を兼ね、資料室に展示されている写真や資料の数々を見学しました。  
文士たちが住んでいた当時の状況がわかる写真や手紙文書など、興味深いものがありました。  
熱心にご覧になっている、御一行様の男性陣です。



《 当日の参加者の皆さん 》

山王会館前で。皆さんの楽しそうな笑顔が素晴らしいですね。  
「生涯学習西柴」の「旗印」が輝いています。 発足以来使っています。

講師の先生を含めて29名です。撮影者のみ写っていません（残念）



《 楽しいお弁当・・・萬福寺境内》

この日はお弁当持参です。萬福寺の境内をお借りして（お許しを得て）頂きました。  
皆さんそれぞれ 「作ってきた?」「途中で買った?」・・・  
でも食事はやはり楽しいですね。



《 川端龍子記念館 》

この日最後の目的地です。近代日本画の巨匠と称される川端龍子（1885～1966）が文化勲章受章と喜寿を記念して、1963年にこの「龍子記念館」を自宅アトリエの向かいに自らが設計して建てたそうです。この日は当館学芸員の方の案内解説で、龍子旧宅アトリエを見学し、また龍子的大作をじっくりと見て来ました。

次回は 平成29年2月7日（火） 上野界限を 歩きます。

（ お わ り ）